

近畿圏における障害のある人の 芸術文化活動に関する調査

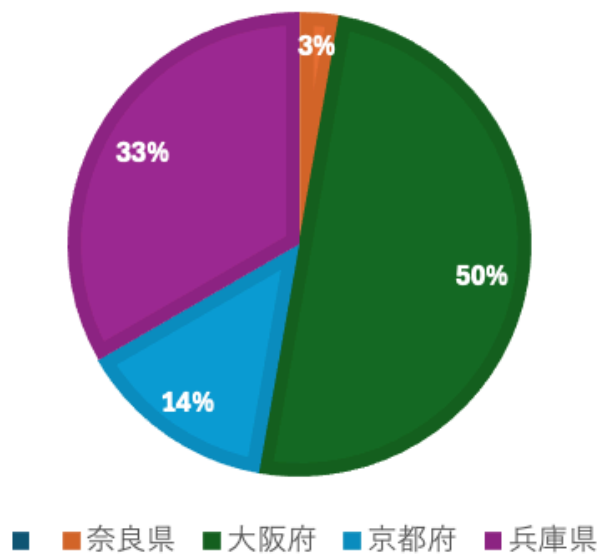
(令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業)

2024年
8月18日(日)
回答締切



②個人調査

回答者の住所（府県）



回答者の住所（府県）、全36件の内訳は下記のとおり。

奈良県	1
大阪府	18
京都府	5
兵庫県	12

1. 現在、アート活動を行っていますか。

回答数、「行っている人」と「行っていない人」の件数は下記の通り。

ただし、回答数が低いことと、「行っている」人が積極的に回答している可能性があるため、これが地域における比率には、そのまま当てはまらないと考えられる。

全36件中

行っている 29件

行っていない 7件（うち2件は「以前行っていたが今は行っていない」）

また、「以前行っていたが今は行っていない」理由としては

・「絵画」を行っていたが「活動していた場所がなくなったため」（大阪府）
といったことがあげられた。

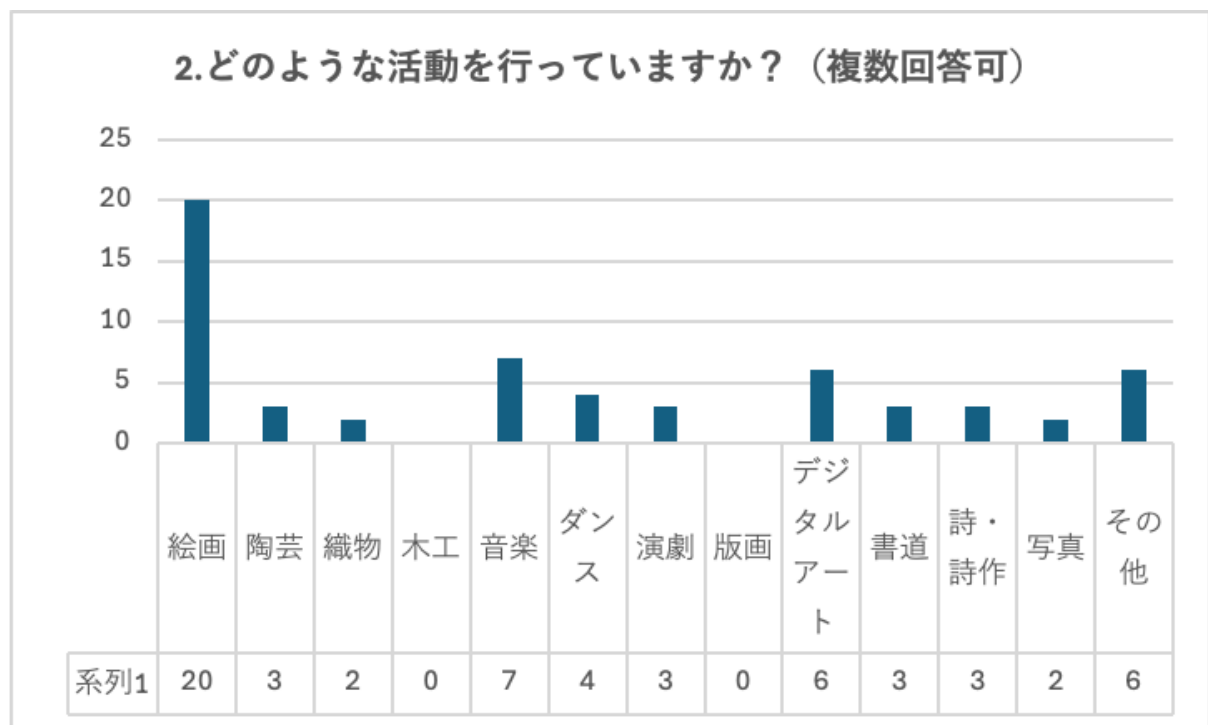
1_2. アート活動を何年間実施していますか。

行っている人 29人中

1年間 4
5年間 2
6年間 3
7年間 1
9年間 1
10年間 4
11年以上 13

* 計28件(行っている人中、1人は年数についての回答なし)

2. どのような活動を行っているか、具体的にご記入ください(複数回答可。該当するものすべてを選択してください)。



行っている人 29人中

2つ以上の活動を行っている個人が17人と半数以上。

また、活動内容としては「絵画」が最も多く、20件。ついで「音楽」が7件。「ダンス」が4件だった。(団体の回答と傾向としては大きく変わらない)

「その他」は、1件のみ回答があった活動をまとめたもので、具体的な内容としては、ボールペン画、漫画+小説+配信、動画配信、声劇（ボイスドラマ）、立体工作、サインダンス、華道・フラワーアレンジメントなど。

「配信」の回答者は活動場所として「自宅」等を挙げていた。配信は団体の回答では出ておらず、個人が自宅で取り組みやすい活動なのかもしれない。

5. 発表の機会

回答の中では、「公募展へ出展した」が18件と最も多かった。他に「個展を開催した」10件、「グループ展へ参加した」6件だった。

複数の発表の機会を持ったことがある人がいる一方で、「発表したことはない」という回答も5件あった。

6. 作品を商品化したことはありますか

「商品化したことはない」13件

「自分で商品化した」11件

「企業などから依頼を受けて商品化した」4件

（複数回答あり、未回答団体あり）

課題・難しさ

1. 場所

自宅を活動場所としている人からは

「声の活動だと防音室がなく困りました。（絵画、演劇、声劇（ボイスドラマ）

「本人は、大きな作品を制作することが好きだが、自宅で制作するので限界があり、とくに、立体的な作品になると、途中保存も難しく、思いきり制作できないこと」（絵画）

「制作場所がない、発表する場がない、公的な発表の場所は団体が取りやすいが、個人では取れなかったりする。」（絵画、デジタルアート、写真）

といった活動場所等の確保や環境づくりの難しさに関する課題があげられた。

自宅外で活動している人からは

「視覚障害があるため、活動場所での動きに制限があり色々難しいですし、開催場所へ行く手段が見つからず出場をあきらめなくてはいけないことも多いです」（音楽）

「定期的に指導が受けられる場所が終了になる予定。民間の教室は高額で参加が難しい。」（絵画、演劇等）

といったアクセシビリティに関する課題があげられた。

2. 資金

「資金が足りないので絵が描けない」（絵画等）

「活動に必要な資金がない 補助金は団体向けが多いので個人は取りにくい」（絵画、デジタルアート、写真）

「資金はもっとあれば良い 節約している」(絵画)
といった回答があった。

4.作品の保存

「自宅に収納」(絵画)といった回答が多く
「作品は家のなかで飾ってます」(写真)という人もいた。
一方で「保存場所がなく困っている」(絵画)「保存する場所のスペースが少なくなりつつあり、けっしていい環境とは言えない。温度や、湿度調整に問題あり。」(絵画、陶芸等)といった保存場所に関する課題や
「保存する方法がわからない」(絵画等)
「保存方法は我流なので正しいかどうか不安。コンピュータで制作しているものはバージョンがどんどん変わり、保存出来ないものや、制作したいバージョンのソフトがはしるパソコンが無くなりつある」(絵画、デジタルアート、写真)
「保存をヘルパーさんなどにしてもらっているので、どこに保管しているかがわからない。また、良好な状態で保存ができているのかが、自分でわからない」(絵画等)といった保存方法に関する課題もあげられた。

5.発表の機会

「活動を始めた頃から比べると、発表の機会が増えた」(書道、11年以上)という回答があった。
一方で、下記のような「発表の機会が少ない」という意見は多くあった。
「発表する機会が少ない」(絵画等、11年以上)「発表する機会が少ない。母が発表や広報、営業、保管など全てやっているが老朽化してきて危うい」(絵画、デジタルアート、写真、11年以上)
また「発表の仕方がわからない」(絵画等、1年間)という声もあった。

6.高齢化や障害の重度化

「自分のペースで取り組めているので特に問題はなし。」(絵画、陶芸、1年間)という意見も複数あった。

課題としては、下記のような回答があった。
「収入が段々医療費に流れて困っています。」(絵画、演劇等、6年間)
「視覚障害が進めば進むほど、行動に制限が多くお金もかかってきてしまいます」(音楽、6年間)
「体力の衰えが不安」(絵画等、11年以上)

7.情報

「支援者が増え、情報も増えつつある」(書道、11年以上)という回答があった。

課題としては下記のようなものがあがった。

「少ない」(絵画等、1年間)

「ネットで探すのが難しい」(絵画、1年間)

「まず、情報にアプローチしにくい・得にくい。過去にやりとりのあった団体や人からの情報は取得できるが、自分から新しい情報をとりに行くことが難しい。

視覚障害者に関しては、音声での読み取りができないと情報を得られない。PCのソフトが対応していないなどもある。」(絵画、音楽等、10年間)

「情報をほとんど知らない」(絵画、11年以上)

長く活動を続けている人でも、情報を得ることに難しさを感じていることが伺える。

障害者芸術文化活動普及支援事業について

1. 厚生労働省が実施している障害者芸術文化活動普及支援事業について知っていますか

回答数34件中

- ・知っている 7件
- ・知らない 27件

2. お住まいの地域の障害者芸術文化活動普及支援事業 支援センターを知っていますか？

回答数34件中

- ・知っている 7件
- ・知らない 27件

*厚労省事業を知っているが、地域の支援センターは知らない人:1人
厚労省事業を知らないが、地域の支援センターは知っている人:1人
他は、どちらも知らないか、どちらも知っている、という回答だった。

3. (※知っていると答えられた方は)お住まいの地域の支援センターへ実際に相談をしたことはありますか。

知っている7件中

- ・相談したことがある 3件

* 回答者の満足度は、5段階で5が2件、4が1件と高かった。

4.「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」「障害者による文化芸術活動の 推進に関する基本的な計画 」について聞いたことがありますか

「聞いたことがないが関心がある」という回答が最も多かった。